

せいしょ ぼうけん ものがたり 聖書の冒険物語

だいごう
第15号
ねんがつはつか
2022年5月20日

きよじん いど 巨人に挑む

こども きじょうだい しょう
子供のためのサムエル記上第17章

とつじょ びと ぐん
突如としてペリシテ人がユダに軍
たい けっしゅう
隊を結集させたことから、戦が始ま
ろうとしていることは明らかだった。
し せき き おう ただ
この知らせを聞いたサウル王は、直
ちにエラの谷に軍隊を配備するよう
にどの命令を下した。かくして、イ
スラエル人とペリシテ人は谷を挟ん
で向き合った。

りょうぐん ぜんせん はいち
両軍が前線に配置されると、ペリ
シテ軍からガテのゴリアテという、
み たけ
身の丈が2.7メートルもある猛者が
たても まえ すす で おおまた
盾持ちを前にして進み出、大股でイ
スラエルの陣地に向かって来た。ゴ
リアテは青銅のかぶとをかぶり、重
いうることじの鎧を身に着け、足に
しんちゅう あ つ
は真鍮のすね当てを付けていた。ま
た、機はた ま ぼう がら きやだい
た、機の巻き棒のような柄の巨大な

やり かたて ふ たたか
槍を片手に振りかざして、戦いを
いど
挑んできた。

「お前達は、決着をつけるのに全
ぐん ひつよう
軍が必要なのか？ おれは一人のペ
リシテ人だ。お前達はサウルの家来
じゃないか。お前達から一人を選ん
で、おれの所へ下って来させよ。一
騎打ちをしようじゃないか。もし、
そいつが勝っておれ様を倒すことが
できれば、おれ達はお前達の家来に
なろう。だが、おれ様が勝って、そ
いつを倒せたら、お前達がおれ達の
家来になるんだ。」ゴリアテはそう
いって、イスラエル軍をあざけた。

せん し ちょうせん おう
この戦士の挑戦に、サウル王と
その兵士達は恐れおののいた。

きよじんせん し
巨人戦士ゴリアテがこのように
あさぼんで
朝晩出てきてはイスラエル軍を愚弄
し、挑発するようになってから、40
日に経っていたが、誰もゴリアテの
挑戦に応じようとする者はいなかつ
た。そのころ、若い羊飼いだビデが、
イスラエル軍の兄達に食糧を届ける
ために、野営地に向かっていた。陣
営の外れに着くと、兵士達は自分の
持ち場に置くために出て行ったばかり
だった。だビデは食料を荷物係に
預けると、兄達に会うために飛び
出して行った。兄達と語っていると、
てきぐん そうぞう
敵軍が騒々しくなってきた。

ペリシテ軍の歓声と鬨の聲が上
なから、またもやあのゴリアテが、
イスラエル軍を嘲笑するために出て
きたのだった。イスラエルの兵士達
は、ゴリアテが向かって来るのを
見るや否や、怖気づいて逃げ始めた。

だビデがゴリアテについて兵士に
たずねると、兵士は言った。「あ
いつを見たか？ 今までに、あんな
にデカイやつを見たことなんかな
いよ！ 2.7メートルはあるだろう
ね。」

おう
だビデ王についての他の物語「敵に打ち勝つ」と
「王となる者の偉業」も、読んでね。

ぜんせん あわ てったい
前線から慌てて撤退してきたもう
ひとり へいし い
1人の兵士も言った。「やつは人間
なんかじゃない！ 我々とは違うん
だ。巨人だよ！」

へいしたち
兵士達は、このようなイスラエルの
てき たお もの
敵を倒した者には、サウル王がど
れほど褒美を提供しているかとか、
こんな巨人と戦って勝ち目はあるだ
ろうかといったことを神経質に語り
あ
合っていた。

い かみ ぐん ぶじょく
「生ける神の軍を侮辱し、なめて
かかるとは、偶像を拜むこのペリシ
びと いったいなにも
テ人は、一体何者なのですか？」
イスラエル軍が戦意をくじかれ、恐
怖におののいている様子を見たダビ
デは怒りを感じ、どうして誰も巨人
ちようせん う た
の挑戦を受けて立たないのかと、

く かえ まわ
繰り返したずねて回った。

やがて、その様子を見ていた誰か
がダビデの言葉を王に伝えると、サ
ウル王は言った。「それこそ、我々に
必要な勇氣というものだ！ ダビデ
をここへ連れて参れ。」

ダビデはサウル王の前に出ると、
こう言った。「王様。あの男のこと
で、誰も気を落とすには及びませ
ん！ 私が行って、あのペリシテ人と
たたか
戦いましょう。」

まえ
「お前がか？ お前はまだ若すぎ
る。ゴリアテは、熟練の戦士だ。そ
れに、お前の何倍も大きいぞ！」と、
おう い
王は言った。

すると、ダビデは答えて言った。
「父の羊を世話していた時、私は群
れから子羊を奪おうとするライオン
やクマに立ち向かいました。私は追
いかけて行って、その牙から子羊を
奪い返しました。もし私に向かって
来ようものなら、私は獣につかみか
かって、打ち殺しました。」

ですから、王様。私をライオンや
クマの爪から守って下さった主は、
このペリシテ人の手からも私を守っ
て下さるでしょう！」

この若者の揺るがぬ信仰を見ると、
サウル王は感心して言った。「分か
った。では、行くがよい。主がお前と
ともにいて下さるように。」

そこでサウル王は、自分自身の
いくさごろも よろい
戦衣と鎧をダビデにまとわせ、青
銅のかぶとをかぶらせて、自分自身
の剣を腰に差させたが、ダビデは
今までに鎧を身に着けたことがなか
ったので、少しすると、首を振って
言った。

「これでは身動きができません。
今までに鎧を身に着けたことがない
のです。」 そう言って、ダビデは
つるぎ はず
剣を外し、鎧を脱いだ。

「だ、だが、一体どうやって、ゴリ
アテと戦いながら身を守るのだ？」
と、王はたずねた。

「私は、自分の杖と石投げで戦い
ます。」と、ダビデは答えた。

サウル王の元を出て行くと、ダビデは近くの小川に行った。そこでなめらかな石を5個拾って羊飼いの袋の中に入れ、片手に石投げを持って、ゴリアテのいる所へ近付いて行った。

一体どうなるかと兵士達が固唾を飲んで見守る中、ダビデが1人だけでイスラエル軍から出て来たのを見たゴリアテは、大股で向かって来た。

「イスラエル人は、おれをバカにしているのか？ 杖を持ってやって来るなんて、おれ様を犬っころ扱いする気か？ さあ、かかって来い。」

お前の肉を、鳥や野の獣の餌食にしてやる。」

そこでダビデは答えて言った。「お前は、剣と槍で私に向かってくるが、私は万軍の主の名、すなわち、お前が挑んだ、イスラエル軍の神の名によって、お前に立ち向かう。」

今日、主は、お前を私の手に渡されるだろう。世界中が、イスラエルにかみがおられることを知るだろう！ また、ここに集まっている全ての人も、主は救を施すのに、剣と槍を用いられないことを知るだろう。この戦いは主の戦いであって、主が我々の手にお前達を渡されるからだ！」

ゴリアテは巨大な槍を握りしめると、こちらに向かって来た。ダビデはゴリアテ目がけて走りながら、袋から石を取り出し、それを石投げで力いっぱい放った。すると、石はペリシテ人の額に命中し、巨人戦士はうつむきに地に倒れた。イスラエル兵達の大歓声がとどろいた！

ダビデは倒れたペリシテ人に走り寄ると、巨人の剣を抜いて、ゴリアテにとどめを刺した。

その日、若い羊飼いは、信仰と、石投げと、1個のなめらかな石だけで、ペリシテ人の勇士に勝利したのだった。

ダビデの勇氣あふれる勝利を目のあたりにしたイスラエル兵士達は、ペリシテ軍を彼らの国まで追撃し、ペリシテ軍が放棄した陣営からは、大いに勝利品を回収した。こうして戦いは終わり、イスラエルには平和が戻った。

このすごい聖書の登場人物について、もっと読んでみよう。
「聖書の偉人：ダビデ王」を見てね。